

あかるく かしこく たくましく

令和5年10月31日 No. 32 文責：校長 佐野紳二

今日、10月31日はハロウィン🎃です。先週末からニュースでは渋谷区の対応が盛んに報道されていますが、今のところ大きな混乱はないようです。 何事も、人に迷惑をかけずに楽しむのが基本だと思います。

日本でもこのところ徐々に社会の中に定着しつつあるハロウィンですが、私たちが子どもの頃はハロウィンの「ハ」の字も聞いたことがないくらいでした。日本ではどちらかというと、若者のイベントとして広がっていった感のあるハロウィンですが、本来、どのような日なのでしょう？ちょっと気になったので、例によって調べてみることにしました。



ハロウィンの由来・起源



ハロウィンの起源は、古代ケルト（現在のアイルランド）の「サウィン」祭です。ケルト人には1年を夏（＝光）と冬（＝闇）に二分する考え方がありました。そして、ケルトの暦は冬の始まりの日である11月1日から新しい年になりました。その前日の10月31日の日没から始まる「サウィン」の夜には、古い時と新しい時がうねりを起こし、闇と光、あの世とこの世が混ざり合い、先祖や親しい死者たちがこの世に戻ってくると信じられていました。そのため、10月31日は死者のことを思い、あの世から訪れた死者をもてなして供養する日として大切にされていました。それを怠ると霊たちは怒り邪悪なことを起こす、祖霊に便乗して悪い妖精、悪魔、魔女などがやってきて災いをもたらす、などと言われていたそうです。

その後、中世ローマカトリック教会が、ケルトの新年が始まる11月1日を諸聖人の日「All Hallows Day（オール・ハロウズ・デイ）」と定めてから、サウィンとハロウィンが重なっていきました。10月31日は「All Hallows Eve（オール・ハロウズ・イブ）」と呼ばれるようになり、これが「Halloween(ハロウィン)」という言葉に変化していったと考えられています。

19世紀になると、多くのケルト系の人々が移民としてアメリカに渡り、ケルトの文化圏で行われていたハロウィンがアメリカに持ち込まれました。そこで、アメリカのパーティー文化とも融合し、ハロウィンは仮装やデコレーションなどを行う楽しいイベントへと変貌していきました。



ハロウィンで仮装をするのはなぜ？

ハロウィンには悪魔や魔女がやって来て災いをもたらすとされていました。そこで、身を守るために仮面をかぶったり、悪霊や魔女の恰好をして仲間に見せかけたりしたのが、仮装の始まりだという説があります。また、やってきた悪魔たちが、その恰好を見て驚いて逃げるようにという説、死者たちに畏敬の念を表しているという説など、諸説あります。



日本では、こうした意味合いは更に薄れ、ハロウィンといえば仮装やコスプレを楽しむイベントとして定着している感があります。東京の池袋では先週末、「池袋ハロウィンコスプレフェス2023」という催しが行われ、多くの人が集まったそうです。

ハロウィンのカボチャ「ジャック・オー・ランタン」の由来

ジャック・オー・ランタンは、ジャックという意地悪な男が、悪魔をだましたために地獄に落ちることもできず、死んだあともカブのランタンを持って彷徨い続けたというアイルランドの伝説に由来します。それが彷徨う霊の代名詞になり、アメリカに伝わると、カブではなく、アメリカで生産量の多いカボチャに変化して広がりました。



Trick or treat (トリック・オア・トリート!) とは

日本語に訳すと「お菓子をくれなきゃいたずらするぞ!」という意味で、ハロウィン特有の合言葉です。ケルトの古い風習では、死者が天国に行けるよう祈りを捧げるために「ソウルケーキ」を用意していました。このソウルケーキがないと死者の魂は現世をさまようことになってしまうので、「ケーキをくれないと天国に行けないよ!」から「トリック・オア・トリート!」が発生したとされています。



アメリカでは、大人がお菓子を用意し、仮装をした子どもたちが家をまわって「トリック・オア・トリート!」と言ってお菓子をもらうのが一般的ですが、日本ではこの風習がほとんどなく、友だち間でハロウィンギフトを贈り合ったり、ハロウィンスイーツを食べてイベント感を満喫したりする方が多く見られます。

日本のハロウィン事情

日本では、1970年代に原宿の「キディランド」がハロウィン商品の販売を開始するなど、商業として入ってきましたが、当時の注目度は高くありませんでした。その後、1983年に原宿表参道でハロウィンパレードが開催されるようになり、1997年に「東京ディズニーランド」がハロウィンをテーマにしたイベントを開催するようになってから認知度が高まりました。すると関連商品もたくさん出回るようになり、子どもがいる家庭や若者を中心に楽しいイベントとして浸透していきました。



ハロウィンの料理

ハロウィンでは、収穫を祝い、野菜や果物を使ってたくさんの料理が作られますが、国によってつくられる料理にはかなり違いがあるようです。

アイルランドのハロウィン料理

- コルカノン (マッシュポテトに、キャベツやベーコン、香草などを混ぜ、牛乳やバターで味付けした料理)
- ボックスティ (マッシュポテトにすりおろしたジャガイモを加えて焼くパンケーキ)
- バームブラック (デザートとして食べられる、レーズンがたっぷり入った甘いパン)

アメリカのハロウィン料理

- パンプキンパイ (かぼちゃのパイ)
- デビルエッグ (ゆで卵を半分に切り、黄身をマヨネーズなどで味付けして絞り袋で盛りつけたもの)
- キャンディコーン (トウモロコシの粒のかたちをしたキャンディー)

日本のハロウィン料理

日本では、カボチャを使ったシチューやコロッケ、スープ、ケーキやプリンが食べられています。



日本ではバレンタインデーと同様にイベントとして楽しまれているハロウィンですが、その由来やそれぞれの意味を知っていると、もっと楽しめるかも知れませんね。私の家では十三夜にはお団子を食べましたが、ハロウィンイベントにはどうやら縁がなさそうです。